

報道関係 各位

2017年10月16日

株式会社日本レースプロモーション

10月21日(土)～22日(日)
2017年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 最終戦
第16回 JAF 鈴鹿グランプリ
開催概要

株式会社日本レースプロモーション(代表取締役社長 倉下 明、所在地:東京都千代田区)は、10月21日(土)～22日(日)の2日間、三重県鈴鹿市 鈴鹿サーキット国際レーシングコース(1周: 5.807 km)において、「全日本スーパーフォーミュラ選手権」最終戦 第16回 JAF 鈴鹿グランプリ を開催いたします。

今大会は、2レース制となっており、土曜日は予選、日曜日は19周の Race1、36周の Race2 と、距離の異なる2レースで争われます。通常、2レース制の場合、各レースでの獲得ポイントは半分ずつになります。最終戦では1位のドライバーにのみ、3ポイントのボーナスポイントが与えられるため、レースの結果次第では大逆転の可能性のある大一番となります。

最終戦の前に石浦 宏明(ピーエムユーセルモインギング)は、依然ドライバーランキングトップを維持していますが、ルーキーながら今季2勝をあげ直近で3戦連続表彰台に立っているピエール・ガスリー(チーム・ムゲン)が、僅か0.5ポイント差で2位と、熾烈なトップ争いを演じています。その後をフェリックス・ローゼンクヴィスト(スノコ チーム ルマン)、関口 雄飛(イトウチュウエネクス チーム インパル)が続き、自力でシリーズチャンピオンを獲得する可能性があるのは、この4名となりました。また、最終戦で獲得可能な最大ポイント数は18ポイント。ランキングトップの石浦から、計算上チャンピオン獲得可能な18ポイント差圏内には、中嶋 一貴(バンテリチン チーム トムス)、アンドレ・ロッター(バンテリチン チーム トムス)、小林 可夢偉(ケーシーエムジー)などの実力者が連なり、予選から各選手の激しいアタック合戦が予想されます。

なお、ピエール・ガスリーもしくはフェリックス・ローゼンクヴィストがチャンピオンを獲得した場合、スーパーフォーミュラ史上初となる、デビューイヤーでのシリーズチャンピオン獲得となります。また、ピエール・ガスリーは今シーズンすでに、マレーシア GP より F1 ドライバーとしてスクーデリア・トロ・ロッシよりデビューしており、アメリカ GP を欠場しての参戦となるなど、注目度の高い1戦となります。



ドライバーランキングトップで最終戦を迎える
No.2 石浦 宏明(ピーエムユーセルモインギング)



デビューイヤーにシリーズチャンピオン獲得の期待が上がる
No.15 ピエール・ガスリー(チーム・ムゲン)

Series Partner

HONDA TOYOTA

Series Supporter

YOKOHAMA

Promotion Partner

HITACHI Inspire the Next
SONY Action Cam
人気酒造

Broadcasting Partner

BSフジ J SPORTS

公式予選

ノックアウト方式

Q1 (20分間) 上位14台がQ2に進出。Race1のスターティンググリッドが決定。

Q2 (7分間) 上位8台がQ3に進出。

Q3 (7分間) 1～8位の順位が確定。Race2のスターティンググリッドが決定。

・公式予選Q1の結果にてRace1のスターティンググリッドを決定し、Q1～Q3通算の結果にてRace2のスターティンググリッドを決定いたします。

・セッションの間のインターバルは各10分

・ノックアウト方式の名称は、予選にて好タイムが出なければその場でノックアウト(脱落)されることから、この呼称となりました。

決勝レース

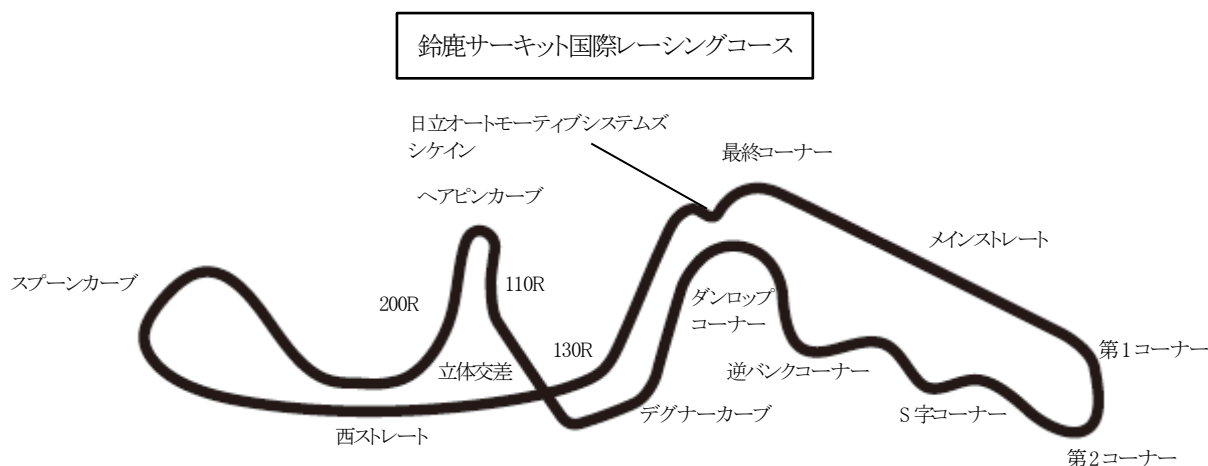
Race 1 : 19周 1周:5.807km×19周=110.33km

Race 2 : 36周 1周:5.807km×36周=209.05km

・Race2においては、先頭車両が10周回終了した時点からレース終了迄の間に1セット(4本)以上のタイヤ交換義務が生じます。

鈴鹿サーキット国際レーシングコースについて

コースは東西に細長く、中間部分の立体交差をはさんで右回りと左回りが入れ替わる、世界的にも珍しい8の字形のレイアウトとなっています。コース全長は5.807kmで、日本のサーキットの中で最長です。コース幅は10～16m。コーナー数は18。最大高低差は52m。世界の多くのサーキットと比べ摩擦係数の高いアスファルト舗装です。土地の高低差と低速～高速コーナーのバランスが上手く配合されており、難易度が高く走り甲斐のあるコースとして評価されています。



Series Partner

HONDA TOYOTA

Series Supporter

YOKOHAMA

Promotion Partner

HITACHI
Inspire the Next
©日立オートモティブシステムズ

SONY
Action Cam

総 人気 酒造

Broadcasting Partner

BSフジ

J SPORTS

2017年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 最終戦 エントリーリスト

(車両:SF14、タイヤ:ヨコハマ)

2017年3月4日現在

Car No.	ドライバー名	生年月日	出身地	チーム名 (読み)	監督	エンジン
1	国本 雄資 Yuji Kunimoto	1990/ 9/12	日本/神奈川県	P.MU/CERUMO・INGING (ピーエムユーセルモイニング)	立川 祐路	TOYOTA RI4A
2	石浦 宏明 Hiroaki Ishiura	1981/ 4/23	日本/東京都			
3	ニック・キャシディ Nick Cassidy	1994/ 8/19	ニュージーランド	KONDO RACING (コンドーレーシング)	近藤 真彦	TOYOTA RI4A
4	山下 健太 Kenta Yamashita	1995/ 8/ 3	日本/千葉県			
7	フェリックス・ローゼンクヴィスト Felix Rosenqvist	1991/11/ 7	スウェーデン	SUNOCO TEAM LEMANS (スノコ チーム ルマン)	片岡 龍也	TOYOTA RI4A
8	大嶋 和也 Kazuya Oshima	1987/ 4/30	日本/群馬県			
10	塚越 広大 Koudai Tsukakoshi	1986/11/20	日本/栃木県	REAL RACING (リアルレーシング)	金石 勝智	HONDA HR-417E
15	ピエール・ガスリー Pierre Gasly	1996/ 2/ 7	フランス	TEAM MUGEN (チーム・ムゲン)	手塚 長孝	HONDA HR-417E
16	山本 尚貴 Naoki Yamamoto	1988/ 7/11	日本/栃木県			
18	小林 可夢偉 Kamui Kobayashi	1986/ 9/13	日本/兵庫県	KCMG (ケーシーエムジー)	土居 隆二	TOYOTA RI4A
19	関口 雄飛 Yuhi Sekiguchi	1987/12/29	日本/東京都	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL (イトウチュウエネクス チーム インパル)	星野 一義	TOYOTA RI4A
20	ヤン・マーデンボロー Jann Mardenborough	1991/ 9/ 9	イギリス			
36	アンドレ・ロッテラー Andre Lotterer	1981/11/19	ドイツ	VANTELIN TEAM TOM'S (バンテリン チーム トムス)	舘 信秀	TOYOTA RI4A
37	中嶋 一貴 Kazuki Nakajima	1985/ 1/11	日本/愛知県			
40	野尻 智紀 Tomoki Nojiri	1989/ 9/15	日本/茨城県	DOCOMO TEAM DANDELION RACING (ドコモチームダンディライアンレーシング)	村岡 潔	HONDA HR-417E
41	伊沢 拓也 Takuya Izawa	1984/ 6/ 1	日本/東京都			
50	小暮 卓史 Takashi Kogure	1980/ 8/ 1	日本/群馬県	B-Max Racing team (ビーマックスレーシングチーム)	組田 龍司	HONDA HR-417E
64	中嶋 大祐 Daisuke Nakajima	1989/ 1/29	日本/愛知県	TCS NAKAJIMA RACING (ティーシーエス・ナカジマレーシング)	中嶋 悟	HONDA HR-417E
65	ナレイン・カーティケヤン Narain Karthikeyan	1977/ 1/14	インド			

ホンダエンジン使用チーム:5チーム8台
トヨタエンジン使用チーム:6チーム11台

Series Partner

HONDA TOYOTA

Series Supporter

YOKOHAMA

Promotion Partner

HITACHI Inspire the Next
©日立オートモティブシステムズ
SONY ActionCam
ソニー株式会社
総 人気酒造

Broadcasting Partner

BSフジ **J SPORTS**

2017年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 ポイントランキング

ドライバーポイントランキング

順位	No.	ドライバー	ポイント	2017/4/22-23		2017/5/27-28		2017/7/8-9	2017/8/19-20	2017/9/9-10	2017/9/23-24	2017/10/21-22	
				SUZUKA Rd.1	OKAYAMA Rd.201	OKAYAMA Rd.202	FUJI Rd.3	MOTEGI Rd.4	AUTOPOLIS Rd.5	SUGO Rd.6	SUZUKA Rd.701	SUZUKA Rd.702	
1	2	石浦 宏明 Hiroaki Ishiura	33.5	5	0.5	5	10	5	5	3	-	-	
2	15	ピエール・ガスリー Pierre Gasly	33	0	0	1	4	10	10	8	-	-	
3	7	フェリックス・ローゼンクヴィスト Felix Rosenqvist	28.5	0	0	2.5	8	6	8	4	-	-	
4	19	関口 雄飛 Yuhi Sekiguchi	25	0	5	5	5	0	0	10	-	-	
5	37	中嶋 一貴 Kazuki Nakajima	22	11	0	0	2	0	3	6	-	-	
6	36	アンドレ・ロッテラー Andre Lotterer	20	4	5	3	6	2	0	0	-	-	
7	18	小林 可夢偉 Kamui Kobayashi	16.5	0	2.5	2	0	8	2	2	-	-	
8	1	国本 雄資 Yuji Kunimoto	16	6	0	0	1	0	4	5	-	-	
9	16	山本 尚貴 Naoki Yamamoto	10.5	8	2	0.5	0	0	0	0	-	-	
10	3	ニック・キャシディ Nick Cassidy	8	0	3	0	0	4	0	1	-	-	
11	4	山下 健太 Kenta Yamashita	6.5	0	1	1.5	0	4	0	0	-	-	
12	8	大嶋 和也 Kazuya Oshima	6	0	0	0	0	0	6	0	-	-	
13	41	伊沢 拓也 Takuya Izawa	5	1	0	0	3	0	0	1	-	-	
14	20	ヤン・マーデンボロー Jann Mardenborough	3.5	0	1.5	0	1	0	1	0	-	-	
15	10	塚越 広大 Koudai Tsukakoshi	3	3	0	0	0	0	0	0	-	-	
16	64	中嶋 大祐 Daisuke Nakajima	2	2	0	0	0	0	0	0	-	-	
17	40	野尻 晋紀 Tomoki Nojiri	2	0	0	0	0	1	1	0	-	-	
	50	小暮 卓史 Takashi Kogure	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	
	65	ナレイン・カーティケヤン Narain Karthikeyan	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	

*表中ポイント数字の 太字：優勝 下線：予選ポールポジション

チームポイントランキング

順位	No.	チーム	ポイント	2017/4/22-23		2017/5/27-28		2017/7/8-9	2017/8/19-20	2017/9/9-10	2017/9/23-24	2017/10/21-22	
				SUZUKA Rd.1	OKAYAMA Rd.201	OKAYAMA Rd.202	FUJI Rd.3	MOTEGI Rd.4	AUTOPOLIS Rd.5	SUGO Rd.6	SUZUKA Rd.701	SUZUKA Rd.702	
1	1 2	P.MU/CERUMO - INGING (ピーエムユーセルモインギング)	47.5	11	0.5	4	10	5	9	8	-	-	
2	15 16	TEAM MUGEN (チーム・ムゲン)	43.5	8	2	1.5	4	10	10	8	-	-	
3	36 37	VANTELIN TEAM TOM'S (バンテリン チーム トムス)	41	14	5	3	8	2	3	6	-	-	
4	7 8	SUNOCO TEAM LEMANS (スノコ チーム ルマン)	34.5	0	0	2.5	8	6	14	4	-	-	
5	19 20	ITOCHE ENEX TEAM IMPUL (イトウチュウエネクス チーム インパル)	27.5	0	5.5	5	6	0	1	10	-	-	
6	18	KCMG (ケーシーエムジー)	16.5	0	2.5	2	0	8	2	2	-	-	
7	3 4	KONDO RACING (コンドー レーシング)	12.5	0	4	1.5	0	7	0	0	-	-	
8	40 41	DOCOMO TEAM DANDELION RACING (ドコモチームダンディライアンレーシング)	6	1	0	0	3	1	0	1	-	-	
9	10	REAL RACING (リアル レーシング)	3	3	0	0	0	0	0	0	-	-	
10	64 65	TCS NAKAJIMA RACING (ティージーエス・ナカジマレーシング)	2	2	0	0	0	0	0	0	-	-	
	50	B-Max Racing team (ビーマックスレーシング チーム)	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	

*表中ポイント数字の 太字：優勝

*チームポイント：各チーム（エントリー）に所属するドライバーの獲得ポイントを合計。同一チーム（エントリー）に2台以上の車両が所属する場合は、上位2台分が得点対象となる。チームポイントには、ポールポジションのポイントは与えられない。

Series Partner

HONDA TOYOTA

Series Supporter

YOKOHAMA

Promotion Partner

HITACHI
Inspire the Next
©日立オートモティブシステムズ

SONY
Action Cam

ASAHI
人気酒造

Broadcasting Partner

BSフジ J SPORTS

—開催概要—

- 大会名称 : 2017年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 最終戦
第16回JAF 鈴鹿グランプリ
- 開催日程 : 2017年10月21日(土) 公式予選
2017年10月22日(日)決勝レース
- 開催サーキット : 鈴鹿サーキット国際レーシングコース(1周 5.807km)
- 主催 : 名古屋レーシングクラブ (NRC)
鈴鹿モータースポーツクラブ (SMSC)
株式会社モビリティランド
- 公認 : 国際自動車連盟 (FIA)
一般社団法人日本自動車連盟 (JAF)
- 認定 : 株式会社日本レースプロモーション (JRP)
- 後援 : 三重県/鈴鹿市/鈴鹿 F1 日本グランプリ地域活性化協議会/一般社団法人 鈴鹿市観光協会/
鈴鹿商工会議所/東京中日スポーツ/中日スポーツ/中日新聞
- 同日開催 : TOYOTA GAZOO Racing 86/BRZ Race 2017 第9戦
TOYOTA GAZOO Racing Netz Cup Vitz Race 2017 関西シリーズ第4戦

Series Partner

HONDA TOYOTA

Series Supporter

YOKOHAMA

Promotion Partner

HITACHI
Inspire the Next
©日立オートモティブシステムズ

SONY
Action Cam

総 人気酒造

Broadcasting Partner

BSフジ **J SPORTS**

【TV放映予定】

■ BSフジ 決勝戦生中継『2017スーパーフォーミュラ第7戦 鈴鹿』

番組では現地の臨場感をそのままお届けします。オフィシャルコメンテーター・ピエール北川と、アンバサダー本山哲の場内実況がサーキットの臨場感をリアルに伝え、ピットからはレース解説に定評のある松田次生と、今シーズンから初参戦の東(ひがし)美樹が、現場の緊張感をレポートします。

○実況:ピエール北川

○解説:本山哲

○ピットリポーター:松田次生、東(ひがし)美樹

○放送時間:2017年10月22日(日)14:00~15:55

■ BSフジ『スーパーフォーミュラ GO ON!』

番組では、注目のレース関係者や豪華ゲストを招き「人」をテーマにトークを展開、スーパーフォーミュラの魅力に迫ります。MCは小林可夢偉と中嶋大祐の現役ドライバー2人。その2人をピエール北川がサポートし、さらに乃木坂46の樋口日奈がナレーターとして華を添えます。加えて、レースダイジェストコーナーでは、ピットリポーター松田次生がトップドライバーならではの徹底解説をお届けし、東美樹が現地でアシストをします。

《放送時間》

第7回: 2017年 10月15日(日) 25:00~25:55(再放送)

第8回: 2017年 12月23日(土) 23:00~23:55

■ J SPORTS

全7戦の予選と決勝の模様をライブ中継。再放送やレースダイジェスト番組もOALします。

第7戦 鈴鹿サーキット

詳しくは jsports.co.jp をご参照下さい。

予選 2017年 10月21日(土) 13:40~ J SPORTS 3 <生中継>

決勝Race1 2017年 10月22日(日) 09:00~ J SPORTS 3 <生中継>

決勝Race2 2017年 10月22日(日) 14:00~ J SPORTS 3 <生中継>

【映像の配信】

■ GYAO!

大会終了15日後よりスーパーフォーミュラの決勝レースを全戦オンデマンドにて無料配信。

※配信日時は変更となる場合があります。

<http://gyao.yahoo.co.jp/sports/>

■ YouTube

予選ならびに決勝の競技映像をダイジェスト版にて当日夜配信。

※配信日時は変更となる場合があります。

詳しくは予選ならびに決勝日の夜、「スーパーフォーミュラ オフィシャルウェブサイト」(<http://www.superformula.net/>)でご確認ください。

superformulavideo-YouTube

<https://www.youtube.com/user/superformulavideo>

【インターネット／SNS】

- スーパーフォーミュラオフィシャルWEBサイト

<http://superformula.net>

- スーパーフォーミュラオフィシャルFacebook

<https://www.facebook.com/superformula.official>

- スーパーフォーミュラオフィシャル twitter

https://twitter.com/SUPER_FORMULA

【チケット情報】

- 前売観戦券(2日間有効) ゆうえんちモータピアパスポート1日券付き
大人:4,000円／中高生:4,000円
小学生:3,100円／3歳～未就学児:2,000円※10月20日(金)も入場可

- 前売観戦券(2日間有効) レース観戦のみ
大人:4,000円／中高生:1,700円
小学生:800円／3歳～未就学児:600円
※10月20日(金)も入場可

- グループチケット(2日間有効) ゆうえんちモータピアパスポート1日券付
3名:10,800円
4名:13,600円
5名:16,000円
※10月20日(金)も入場可
※前売りのみの販売

レースチケットのご案内 (<http://www.suzukacircuit.jp/superformula/ticket/index.html>)をご参照ください。

*この件に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

株式会社日本レースプロモーション (<http://www.superformula.net/>)

102-0074 東京都千代田区九段南2-3-25 平安堂ビル

e-mail: media@superformula.net

Tel:03-3237-0131 Fax:03-3237-0135

Series Partner

HONDA TOYOTA

Series Supporter

YOKOHAMA

Promotion Partner

HITACHI
Inspire the Next
SONY
Action Cam

総 人気酒造

Broadcasting Partner

BSフジ **J SPORTS**

【2017年 全日本スーパーフォーミュラ選手権参考資料】

1. 全日本スーパーフォーミュラ選手権とは？

純然たるレーシングマシンであるオープン・シングルシーターのフォーミュラカーによって競われる国内最高峰の自動車レースです。一般社団法人日本自動車連盟(JAF)が公認し、株式会社日本レースプロモーションのプロモートにより、1996年にフォーミュラ・ニッポンとしてスタート。2013年より名称をスーパーフォーミュラに変更し現在に至っています。

2. チャンピオンシップ

2017年全日本スーパーフォーミュラ選手権は、全7戦、日本全国6カ所のサーキットを11チーム(エントラント)、国内外の19名(19台)のドライバー(※1)が転戦しチャンピオンが争われる、アジア地域唯一の国際格式選手権シリーズです。

(※1)ドライバー:国内:13名、海外:6カ国(ニュージーランド、スウェーデン、フランス、イギリス、ドイツ、インド)6名

2017年全日本スーパーフォーミュラ選手権シリーズ開催スケジュール

日程	ラウンド/サーキット	予選方式	決勝レース方式
4 / 22 ~ 23	第1戦/鈴鹿サーキット	ノックアウト	200 km
5 / 27 ~ 28	第2戦/岡山国際サーキット	計時予選/ノックアウト	2 レース制
7 / 8 ~ 9	第3戦/富士スピードウェイ	ノックアウト	250 km
8 / 19 ~ 20	第4戦/ツインリンクもてぎ	ノックアウト	250 km
9 / 9 ~ 10	第5戦/オートポリス	ノックアウト	250 km
9 / 23 ~ 24	第6戦/スポーツランド SUGO	ノックアウト	250 km
10 / 21 ~ 22	第7戦/鈴鹿サーキット	ノックアウト	2 レース制

2017年シリーズ選手権 ポイントシステム

順位	優勝	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位以下	pp
1大会1レース	10	8	6	5	4	3	2	1	0	1
1大会2レース	5	4	3	2.5	3	1.5	1	0.5	0	1

*P.P.:ポールポジション(予選1位)には、ドライバーにのみ1ポイントが与えられます。チームポイントには加算されません。

*1大会2レース制の場合、レース1、レース2共に1レース制の得点の半分が与えられます。

*1大会2レース制の場合、最終戦に限りレース1、レース2の勝者には通常ポイントとは別に3ポイントが与えられる。

これによりポールポジション+2連勝で最大18ポイントが与えられます。

*最終戦終了時点で、複数のドライバーまたはチーム(エントラント)が同一ポイントを獲得している場合は、高得点を得た回数が多い順に順位を決定します。

3. シリーズ賞典

シリーズ賞典として、年間チャンピオンドライバーには、株式会社日本レースプロモーションよりシリーズドライバーズチャンピオンカップと賞金が授与されるほか、自由民主党モータースポーツ振興議員連盟より同連盟杯が贈られ、観光庁より観光庁長官杯が交付されます。また年間チャンピオンチームには経済産業省より経済産業大臣杯が交付され、株式会社日本レースプロモーションより賞金が授与されます。

Series Partner

HONDA TOYOTA

Series Supporter

YOKOHAMA

Promotion Partner

HITACHI Inspire the Next
©日本オートモティブシステムズ

SONY ActionCam

総 人気酒造

Broadcasting Partner

BSフジ **J SPORTS**

4. レース車両

◎シャシー

「クイック・アンド・ライト」をキーワードに開発されたSF14(イタリアダラーラ社製)を2014年より採用。
この車両を採用して以来、レースの質が一気に向上した事から海外からの注目を集めるようになりました。

◎エンジン

日本を代表する自動車メーカーであるホンダとトヨタが次世代エンジン開発に貢献するコンセプト=NRE(※2)に基づき開発したHONDA HR-417E、TOYOTA RI4A を搭載しています。

このエンジンの特徴としては「燃料リストリクター」(燃料流量規制システム)を全機装備し、燃料流量を一定にすることにより燃料をいかに効率良く活用しパワーに結びつけるかが、勝負の鍵となります。

厳しい開発競争の結果、効率の良さを図る“正味燃費消費率(BSFC)”、“正味熱効率”では市販ハイブリット車以上の性能を発揮しており、次世代エコエンジンの開発に貢献しています。

(※2)NRE エンジンについて

ホンダ、トヨタ、ニッサンが、環境技術とモータースポーツの面白さの両立に向けに決定したエンジン規定。

- ・気筒配列 : 直列4気筒
- ・排気量 : 2,000cc+ターボ
- ・燃料吸気方式 : ダイレクトインジェクション
- ・燃料流量制限 : 鈴鹿、富士大会… 燃料流量95kg/h
その他大会……………燃料流量90kg/h

◎オーバーテイクシステム

レースを盛り上げる一助として、オーバーテイクシステム(以下OTS)を2009年より採用しています。

このシステムは、スーパーフォーミュラが始めた仕組みです。

当該システムは、レースに於ける見せ場の一つである追い越しをより促すシステムです。

SF14のシステムは、各エンジンに装備されている燃料リストリクターを活用し、燃料供給量を一時的に増加させパワーを上げることができます。(※3)ステアリングにあるボタンを操作し、1大会につき5回、各20秒間使用可能となります。使用中は、ドライバーのヘルメット後方にあるランプ(オーバーテイクランプ=OTL)が点滅し、観客からも視認できます。

またポイントリーダードライバーは、その榮譽を称える意味から1台だけ赤色のランプ(名称:リーダーズレッド)を装着しています。

(※3)オーバーテイクシステムの効果について

- ・メカニズム : システム作動時に燃料流量を10kg/h増加させる
- ・効果 : 約60ps、10%の出力増
- ・ルール : 1回に20秒間作動、1大会で5回使用可能

◎タイヤ

2016年シーズンより横浜ゴム製のワンメイク供給です。横浜ゴムのスーパーフォーミュラ用ADVANレーシングタイヤは、スーパーフォーミュラが要求するグリップ、耐久性、安全性などの厳しい目標に対し、高いパフォーマンスを発揮、レースの盛り上げに貢献しています。